

## 豊田PCB廃棄物処理事業の状況報告について

## 1 豊田PCB廃棄物処理事業の処理実績

## (1) 豊田PCB廃棄物処理施設での処理実績

(表-1) PCB廃棄物の処理量 (中間処理完了ベース)

令和3年1月末現在

	(注1) 変圧器類 (台)				(注2) コンデンサー類 (台)				(注3) 廃PCB (本)	保管容器 (箱)	純PCB 処理量 (トン)
	大型	小型	車載	合計	健全品	処理手間物	小型機器 (10kg未満)	合計			
H17年度合計 (試運転物含む)	8	33	8	49	1,185	0	0	1,185	33	0	31.5
H18年度合計	19	55	3	77	1,592	13	0	1,605	1	0	63.7
H19年度合計	26	146	19	191	2,227	62	0	2,289	15	0	115.8
H20年度合計	36	242	26	304	3,743	93	0	3,836	30	0	186.5
H21年度合計	40	221	25	286	4,616	137	0	4,753	47	2	199.4
H22年度合計	33	135	19	187	3,528	242	0	3,770	56	10	159.9
H23年度合計	33	85	24	142	3,658	252	0	3,910	28	10	144.1
H24年度合計	40	147	33	220	4,923	203	0	5,126	64	17	217.9
H25年度合計	52	100	49	201	5,778	127	66	5,971	123	23	207.5
H26年度合計	41	50	57	148	4,798	1,031	44	5,873	22	197	214.3
H27年度合計	26	17	61	104	4,405	1,292	487	6,184	27	381	190.6
H28年度合計	27	17	58	102	4,392	825	2,103	7,320	93	396	165.9
H29年度合計	14	17	65	96	3,846	1,096	3,462	8,404	99	450	171.3
H30年度合計	15	29	64	108	2,271	601	4,073	6,945	323	432	112.7
R元年度合計	49	40	61	150	1,344	395	4,084	5,823	300	603	96.2
R2年4月	2	3	9	14	83	13	207	303	19	18	9.4
R2年5月	0	4	2	6	88	6	101	195	26	2	8.6
R2年6月	0	5	6	11	42	14	125	181	15	2	0.0
R2年7月	0	0	3	3	67	2	118	187	1	44	6.0
R2年8月	0	1	1	2	143	2	1	146	36	71	10.0
R2年9月	0	7	14	21	223	18	131	372	78	66	14.5
R2年10月	0	0	4	4	96	2	10	108	53	25	11.7
R2年11月	0	2	6	8	179	2	31	212	14	1	0.9
R2年12月	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0
R3年1月	0	0	0	0	10	0	100	110	45	82	8.1
R3年2月											
R3年3月											
R2年度合計	2	22	45	69	931	59	824	1,814	287	311	69.2
合計	461	1,356	(注4) 617	2,434	(※1) 53,237	(※1) 6,428	15,143	(注4) 74,808	1,548	(注4) 2,832	2,346.5

(注1) : 変圧器類とは、変圧器、変流器、リアクトル等を含む。大型変圧器とは重量が1.62 t を超えるもの又は小型トランス解体ラインでは処理できないもの。

(注2) : 健全品コンデンサーは連結コンデンサー、サージアブソーバーを含む。処理手間物は、寸法外・海外製・漏洩品のコンデンサー。

(※1) 大阪事業エリアのPPコンデンサー5,009台 (健全品4,587台、処理手間物422台) を含む。

(注3) : 廃PCBとはドラム缶、ペール缶や試薬ビンに入った廃PCB油

(注4) : 他事業所に搬出し処理した車載変圧器158台、炭化コンデンサー122台とその保管容器79箱は除く。

## (2)PCB廃棄物の受入状況（令和3年1月末現在）

豊田PCB処理事業所の操業開始後、令和3年1月末までのPCB廃棄物の受入実績（試運転含む）は、トランス類2,415台、コンデンサ類77,634台（PPコンデンサ5,009台含む。）、廃PCB油が1,842本、保管容器2,848箱です。

（表-2）PCB廃棄物の受入状況（搬入ベース）

	変圧器類(台)			コンデンサ類(台)	廃PCB		保管容器(箱)
	大型	小型	車載		(本)	(kg)	
試運転時 H17年6～8月	1台	5台	8台	588台	33本	7,330kg	—
操業時 H17年9月～							
H17年度合計	11台	42台	—	1,156台	—	—	—
H18年度合計	16台	52台	3台	1,192台	1本	300.0kg	—
H19年度合計	27台	147台	21台	2,449台	30本	8,407.5kg	—
H20年度合計	36台	235台	24台	3,834台	15本	2,703.6kg	—
H21年度合計	40台※①	227台	26台	5,184台	47本	13,321.1kg	2箱
H22年度合計	34台	128台	22台	3,903台	63本	15,402.0kg	10箱
H23年度合計	31台※②	87台	21台	3,657台	33本	9,308.0kg	10箱
H24年度合計	40台※③	156台	34台	5,676台	95本	27,996.7kg	17箱
H25年度合計	43台※④	89台	50台	6,191台	216本	59,601.5kg	23箱
H26年度合計	43台※⑤	53台	60台	6,459台	95本	25,136.5kg	210箱
H27年度合計	28台	19台	60台	7,161台	27本	313.0kg	368箱
H28年度合計	24台	12台	60台	8,076台	105本	5,939.2kg	401箱
H29年度合計	11台※⑥	21台	62台	8,388台	170本	2,287.1kg	456箱
H30年度合計	17台※⑦	47台	64台	6,529台	301本	18,627.4kg	439箱
R元年度合計	15台※⑧	35台	64台	5,377台	298本	39,698.7kg	588箱
R2年4月	0台	5台※⑨	6台	131台	25本	5,134.9kg	15箱
R2年5月	0台	4台	6台	325台	25本	6,132.2kg	4箱
R2年6月	0台	0台	0台	24台	0本	0.0kg	0箱
R2年7月	0台	1台	6台	156台	37本	5,716.5kg	69箱
R2年8月	0台	7台	6台	282台	35本	5,506.5kg	78箱
R2年9月	0台	0台	7台	335台	90本	5,389.2kg	41箱
R2年10月	0台	2台	7台※⑨	81台	28本	3,424.1kg	19箱
R2年11月	0台	0台	0台	0台	0本	0.0kg	0箱
R2年12月	0台	0台	0台	157台	0本	0.0kg	0箱
R3年1月	1台	0台	6台	323台	73本	4,994.2kg	98箱
R3年2月							
R3年3月							
R2年度合計	1台	19台	44台	1,814台	313本	36,297.6kg	324箱
操業期間合計	417台	1,369台	615台	77,046台	1,809台	265,340.0kg	2,848箱
試運転含む全受入量	418台	1,374台	623台	77,634台	1,842本	272,670.0kg	2,848箱

※①平成21年度:トランス解体部品、愛知県内1個は含みません。  
 ※②平成23年度:トランス解体部品、静岡県内6個は含みません。  
 ※③平成24年度:トランス解体部品、名古屋市内5個、静岡県内6個、三重県内11個は含みません。  
 ※④平成25年度:トランス解体部品、浜松市内8個、静岡県内10個、名古屋市内21個は含みません。  
 ※⑤平成26年度:トランス解体部品、愛知県内15個、静岡県内10個、岐阜県内9個、名古屋市内3個は含みません。  
 ※⑥平成29年度:トランス解体部品、静岡市内2個、浜松市内5個は含みません。  
 ※⑦平成30年度:トランス解体部品、浜松市内2個は含みません。  
 ※⑧令和元年度:トランス解体部品、名古屋市内33個、岐阜県内6個、浜松市内1個は含みません。  
 ※⑨令和2年度:トランス解体部品、愛知県内5個、浜松市内1個は含みません。

### (3)豊田PCB処理事業区域(東海4県7市)の受入進捗状況

(表-3)届出区域別 登録状況 (試運転物を含みます。大型変圧器解体部品は含みません。)

※令和3年1月末時点

区域名称	保管者数	事業場数	変圧器台数	コンデンサー台数	廃PCB		保管容器
豊田市	294	307	10台	6,632台	19本	25.8kg	332箱
愛知県	2,700	2,865	354台	14,454台	326本	30,086.9kg	504箱
名古屋市	1,625	1,722	410台	9,420台	498本	45,409.1kg	417箱
豊橋市	287	314	3台	1,242台	55本	356.2kg	50箱
岡崎市	205	229	27台	1,004台	15本	330.2kg	81箱
岐阜県	1,430	1,506	115台	5,263台	80本	4,027.8kg	211箱
岐阜市	324	354	47台	965台	49本	36.9kg	35箱
静岡県	1,859	1,947	117台	9,944台	314本	46,555.0kg	675箱
静岡市	545	594	48台	2,300台	75本	9,376.5kg	54箱
浜松市	536	571	947台	9,901台	163本	33,775.2kg	150箱
三重県	1,188	1,292	384台	13,669台	567本	124,182.9kg	1,036箱
合計:	10,993	11,701	2,462台	74,794台	2,161本	294,162.5kg	3,545箱

(表-4)届出区域別 受入状況 (試運転物を含みます。大型変圧器解体部品は含みません。)

区域名称	保管者数	事業場数	変圧器台数	コンデンサー台数	廃PCB		保管容器
豊田市	292	305	10台	6,629台	17本	25.8kg	332箱
愛知県	2,591	2,745	330台	13,927台	260本	26,409.3kg	461箱
名古屋市	1,550	1,637	409台	9,216台	430本	45,207.8kg	393箱
豊橋市	274	301	3台	1,208台	47本	356.1kg	47箱
岡崎市	198	222	27台	995台	15本	330.2kg	80箱
岐阜県	1,341	1,416	114台	5,036台	69本	4,027.2kg	207箱
岐阜市	302	332	47台	934台	23本	36.7kg	35箱
静岡県	1,764	1,846	116台	9,749台	294本	46,554.4kg	664箱
静岡市	518	565	48台	2,026台	65本	9,147.3kg	46箱
浜松市	522	557	929台	9,452台	146本	31,771.4kg	149箱
三重県	1,136	1,239	382台	13,453台	476本	108,804.0kg	434箱
合計:	10,488	11,165	2,415台	72,625台	1,842本	272,670.1kg	2,848箱

(表-5)届出区域別 進捗率 (試運転物を含みます。大型変圧器解体部品は含みません。)

区域名称	保管者	事業場	変圧器	コンデンサー	廃PCB		保管容器
豊田市	99.3%	99.3%	100.0%	100.0%	89.5%	99.8%	100.0%
愛知県	96.0%	95.8%	93.2%	96.4%	79.8%	87.8%	91.5%
名古屋市	95.4%	95.1%	99.8%	97.8%	86.3%	99.6%	94.2%
豊橋市	95.5%	95.9%	100.0%	97.3%	85.5%	100.0%	94.0%
岡崎市	96.6%	96.9%	100.0%	99.1%	100.0%	100.0%	98.8%
岐阜県	93.8%	94.0%	99.1%	95.7%	86.3%	100.0%	98.1%
岐阜市	93.2%	93.8%	100.0%	96.8%	46.9%	99.4%	100.0%
静岡県	94.9%	94.8%	99.1%	98.0%	93.6%	100.0%	98.4%
静岡市	95.0%	95.1%	100.0%	88.1%	86.7%	97.6%	85.2%
浜松市	97.4%	97.5%	98.1%	95.5%	89.6%	94.1%	99.3%
三重県	95.6%	95.9%	99.5%	98.4%	84.0%	87.6%	41.9%
合計:	95.4%	95.4%	98.1%	97.1%	85.2%	92.7%	80.3%

【参考資料】令和2年6月末時点の受入進捗状況

(表一三)届出区域別 登録状況 (試運転物を含みます。大型変圧器解体部品は含みません。) ※令和2年6月末現在

区域名称	保管者数	事業場数	変圧器台数	コンデンサー台数	廃PCB		保管容器
豊田市	294	307	10台	6,632台	19本	25.8kg	332箱
愛知県	2,632	2,792	354台	14,097台	280本	28,148.6kg	460箱
名古屋市	1,587	1,682	410台	9,358台	453本	45,408.4kg	401箱
豊橋市	278	305	3台	1,213台	47本	356.1kg	49箱
岡崎市	203	227	27台	1,000台	15本	330.2kg	81箱
岐阜県	1,379	1,453	115台	5,117台	68本	4,027.2kg	205箱
岐阜市	312	341	47台	951台	18本	36.6kg	35箱
静岡県	1,803	1,889	116台	9,824台	289本	46,554.2kg	671箱
静岡市	529	578	48台	2,273台	68本	9,376.3kg	46箱
浜松市	528	563	946台	9,888台	143本	31,132.9kg	150箱
三重県	1,173	1,277	382台	13,528台	534本	122,162.4kg	1,025箱
合計:	10,718	11,414	2,458台	73,881台	1,934本	287,558.6kg	3,455箱

(表一四)届出区域別 受入状況 (試運転物を含みます。大型変圧器解体部品は含みません。)

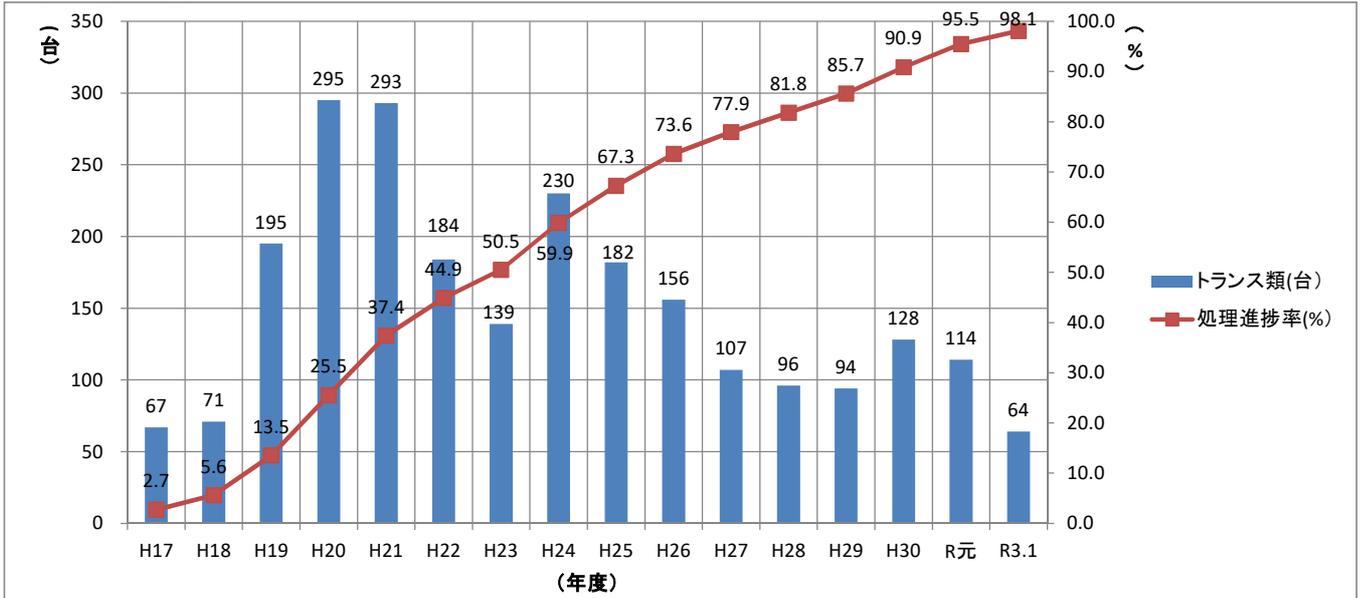
区域名称	保管者数	事業場数	変圧器台数	コンデンサー台数	廃PCB		保管容器
豊田市	289	302	10台	6,626台	17本	25.8kg	327箱
愛知県	2,516	2,665	327台	13,530台	227本	26,330.0kg	395箱
名古屋市	1,508	1,592	409台	9,140台	392本	44,647.5kg	373箱
豊橋市	265	291	3台	1,121台	29本	354.2kg	34箱
岡崎市	196	220	27台	988台	9本	56.5kg	36箱
岐阜県	1,316	1,389	113台	4,996台	41本	3,999.2kg	176箱
岐阜市	296	325	47台	926台	15本	36.6kg	35箱
静岡県	1,734	1,816	116台	9,545台	259本	46,089.1kg	653箱
静岡市	506	553	48台	1,991台	65本	9,147.3kg	44箱
浜松市	515	550	897台	9,037台	129本	27,612.4kg	149箱
三重県	1,127	1,228	375台	13,391台	396本	89,341.2kg	321箱
合計:	10,268	10,931	2,372台	71,291台	1,579本	247,639.6kg	2,543箱

(表一五)届出区域別 進捗率 (試運転物を含みます。大型変圧器解体部品は含みません。)

区域名称	保管者	事業場	変圧器台数	コンデンサー	廃PCB		保管容器
豊田市	98.3%	98.4%	100.0%	99.9%	89.5%	99.8%	98.5%
愛知県	95.6%	95.5%	92.4%	96.0%	81.1%	93.5%	85.9%
名古屋市	95.0%	94.6%	99.8%	97.7%	86.5%	98.3%	93.0%
豊橋市	95.3%	95.4%	100.0%	92.4%	61.7%	99.5%	69.4%
岡崎市	96.6%	96.9%	100.0%	98.8%	60.0%	17.1%	44.4%
岐阜県	95.4%	95.6%	98.3%	97.6%	60.3%	99.3%	85.9%
岐阜市	94.9%	95.3%	100.0%	97.4%	83.3%	99.9%	100.0%
静岡県	96.2%	96.1%	100.0%	97.2%	89.6%	99.0%	97.3%
静岡市	95.7%	95.7%	100.0%	87.6%	95.6%	97.6%	95.7%
浜松市	97.5%	97.7%	94.8%	91.4%	90.2%	88.7%	99.3%
三重県	96.1%	96.2%	98.2%	99.0%	74.2%	73.1%	31.3%
合計:	95.8%	95.8%	96.5%	96.5%	81.6%	86.1%	73.6%

(グラフー1)東海4県内のPCB廃棄物処理進捗状況(令和2年度1月末)

【トランス類】 受入ベース

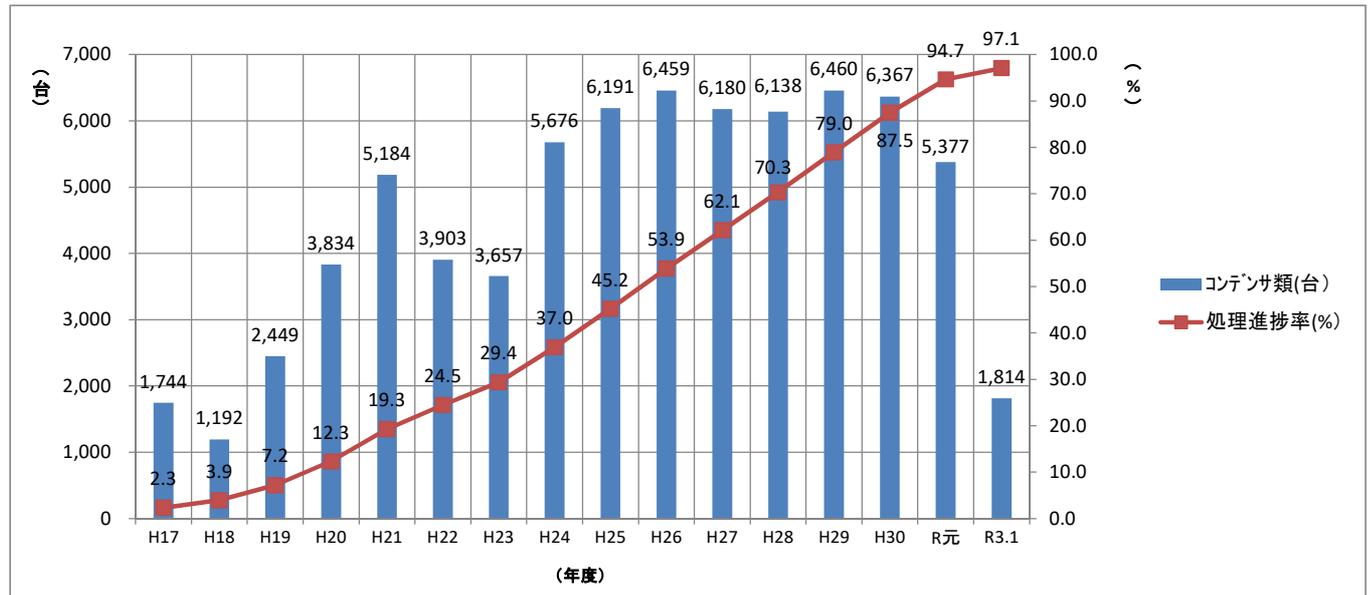


年度	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R元	R3.1	合計
トランス類(台)	67	71	195	295	293	184	139	230	182	156	107	96	94	128	114	64	2,415
処理進捗率(%)	2.7	5.6	13.5	25.5	37.4	44.9	50.5	59.9	67.3	73.6	77.9	81.8	85.7	90.9	95.5	98.1	

※登録量(分母):令和2年度R3.1月末までのJESCO登録量=2,462台(地域間移動の車載トランスは除く。)

※実績量には、地域間移動の車載トランスは除く。

【コンデンサ類】受入ベース



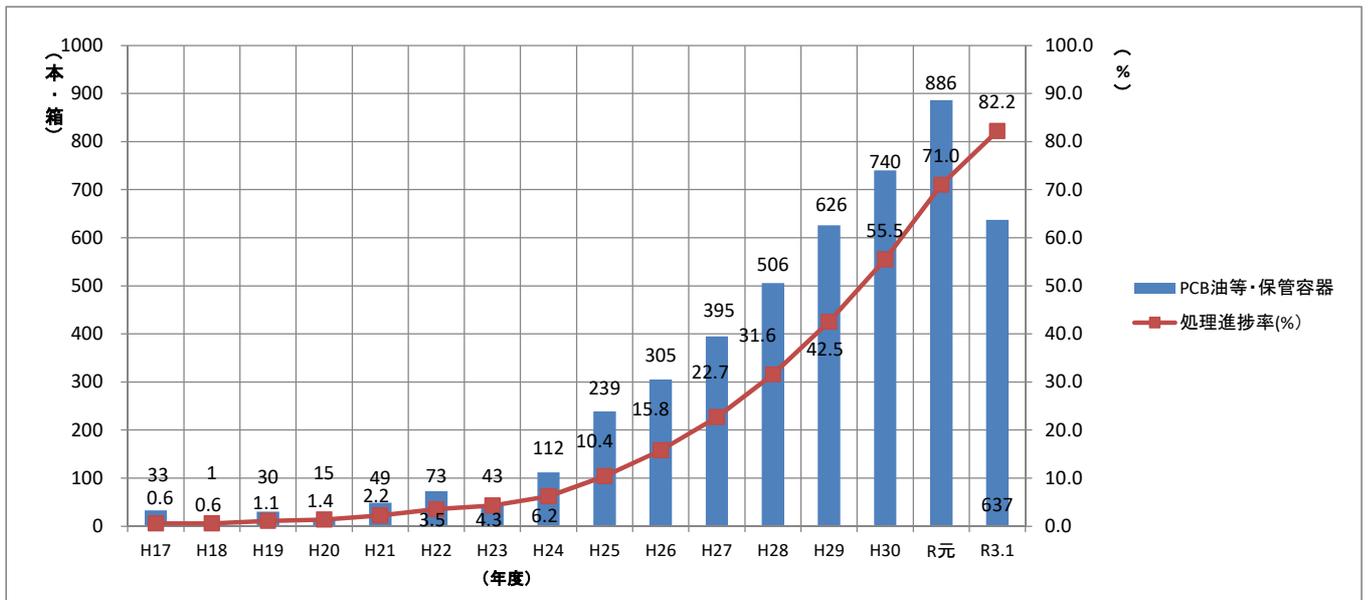
年度	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R元	R3.1	合計
コンデンサ類(台)	1,744	1,192	2,449	3,834	5,184	3,903	3,657	5,676	6,191	6,459	6,180	6,138	6,460	6,367	5,377	1,814	72,625
処理進捗率(%)	2.3	3.9	7.2	12.3	19.3	24.5	29.4	37.0	45.2	53.9	62.1	70.3	79.0	87.5	94.7	97.1	

※登録量(分母):令和2年度R3.1月末までのJESCO登録量=74,794台(地域間移動の炭化コンデンサは除く。)

※実績量には、地域間移動量の炭化コンデンサは除く。

※大阪事業からのPPコンデンサは除く。

【PCB油等及び保管容器】受入ベース



年度	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R元	R3.1	合計
PCB油等・保管容器	33	1	30	15	49	73	43	112	239	305	395	506	626	740	886	637	4,690
処理進捗率(%)	0.6	0.6	1.1	1.4	2.2	3.5	4.3	6.2	10.4	15.8	22.7	31.6	42.5	55.5	71.0	82.2	

※PCB油類には、保管容器を含む。

※登録量(分母):令和2年度R3.1月末までのJESCO登録量=5706本・箱(地域間移動の炭化コンデンサの保管容器は除く。)

※実績量には、地域間移動量の炭化コンデンサの保管容器は除く。

## 2 周辺環境への影響の状況

(表-1) 排出源モニタリング

操業開始から令和2年12月末現在

要素	調査項目	これまでの最大値 (カッコ内は測定年月)		令和2年			管理目標値等	単位
				4月	7月	10月		
排気	PCB	1~4系	0.001未満	0.001未満	0.001未満	0.001未満	0.01	mg/m <sup>3</sup> N
		5系	0.001未満	0.001未満	0.001未満	0.001未満		
		6系	0.001未満	0.001未満	0.001未満	0.001未満		
	ダイオキシン類	1~4系	0.026(平成18.10)	0.000017	0.000087	0.000046	0.1	ng-TEQ/m <sup>3</sup> N
		5系	0.000052(平成18.9)	0.000017	0.00000050	0.0000086		
		6系	0.00089(令和2.10)	0.0000049	0.000017	0.00089		
ベンゼン	1~4系	2.2(平成22.10)	0.5未満	0.5未満	0.5未満	50	mg/m <sup>3</sup> N	
	3-2系	71(平成19.1)	0.5未満	0.5未満	0.5未満			
排水 (放流口)	PCB	0.0005未満		0.0005未満	0.0005未満	0.0005未満	mg/L	
	ダイオキシン類	0.13(平成19.2)		0.014	0.0016	0.0054	5	pg-TEQ/L
騒音	騒音レベル	昼間	69(平成19.1)	—	—	—	70	dB(A)
		夜間	68(平成19.1)	—	—	—	65	
振動	振動レベル	昼間	49(平成21.1)	—	—	—	65	dB
		夜間	50(平成31.1)	—	—	—	65	
悪臭	アセトアルデヒド	0.039(平成20.10)		—	—	0.026	0.05	ppm
	トルエン	0.9未満		—	—	0.9未満	10	ppm
	キシレン	0.1(平成18.9)		—	—	0.1未満	1	ppm

(表-2) 周辺環境モニタリング

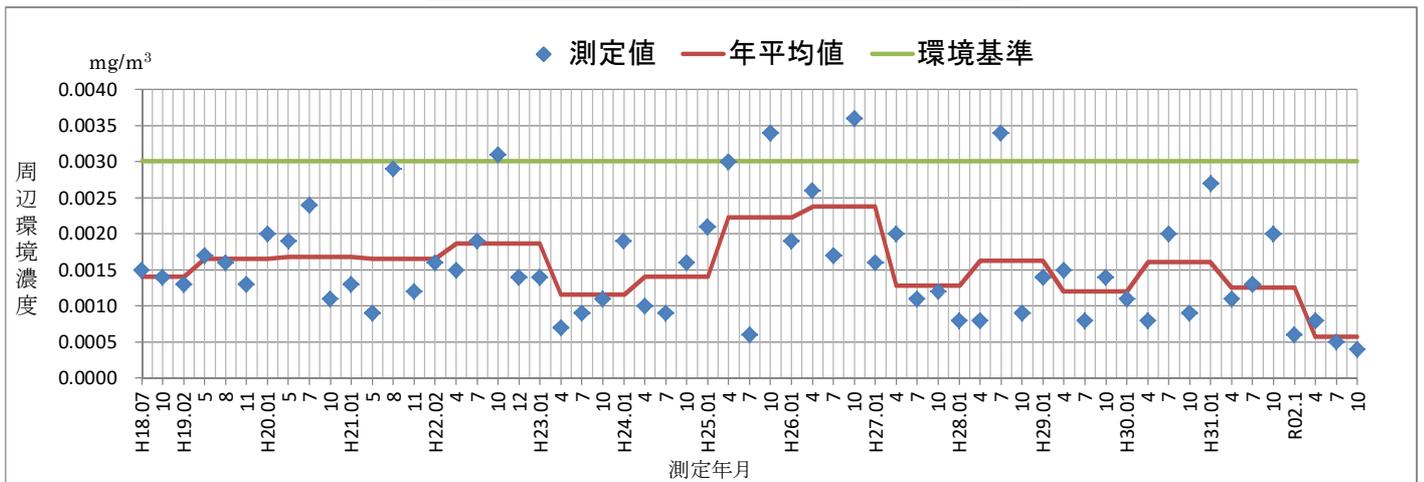
操業開始から令和2年12月末現在

要素	調査項目	これまでの最大値 (カッコ内は測定年月)		令和2年			環境基準値等	単位
				4月	7月	10月		
大気	PCB	0.0000082(平成29.7)		0.0000017	0.0000027	0.00000025	0.0005を超えないこと(注1)	mg/m <sup>3</sup>
	ダイオキシン類	0.057(平成20.1)		0.010	0.017	0.010	年平均0.6(注2)	pg-TEQ/m <sup>3</sup>
	ベンゼン	年平均0.0024(平成26年度)		0.0008	0.0005	0.0004	年平均0.003(注2)	mg/m <sup>3</sup>
土壌	PCB	0.0005未満		—	—	0.0005未満	検出されないこと(0.0005未満)	mg/L
	ダイオキシン類	4.0(令和2.10)		—	—	4.0	1000	pg-TEQ/g
地下水	PCB	0.0005未満		0.0005未満	—	0.0005未満	検出されないこと(0.0005未満)	mg/L
	ダイオキシン類	0.075(平成19.2)		0.062	—	0.063	1.0	pg-TEQ/L

(注1) 評価基準値「PCB等を焼却処分する場合における排ガス中のPCBの暫定排出許容限界について」(昭和47年12月22日付 環境庁大気保全局長通達)で示される環境中のPCB濃度。

(注2) ダイオキシン類及びベンゼンの大気環境基準は、豊田施設の存在する工業専用地域には適用されません。

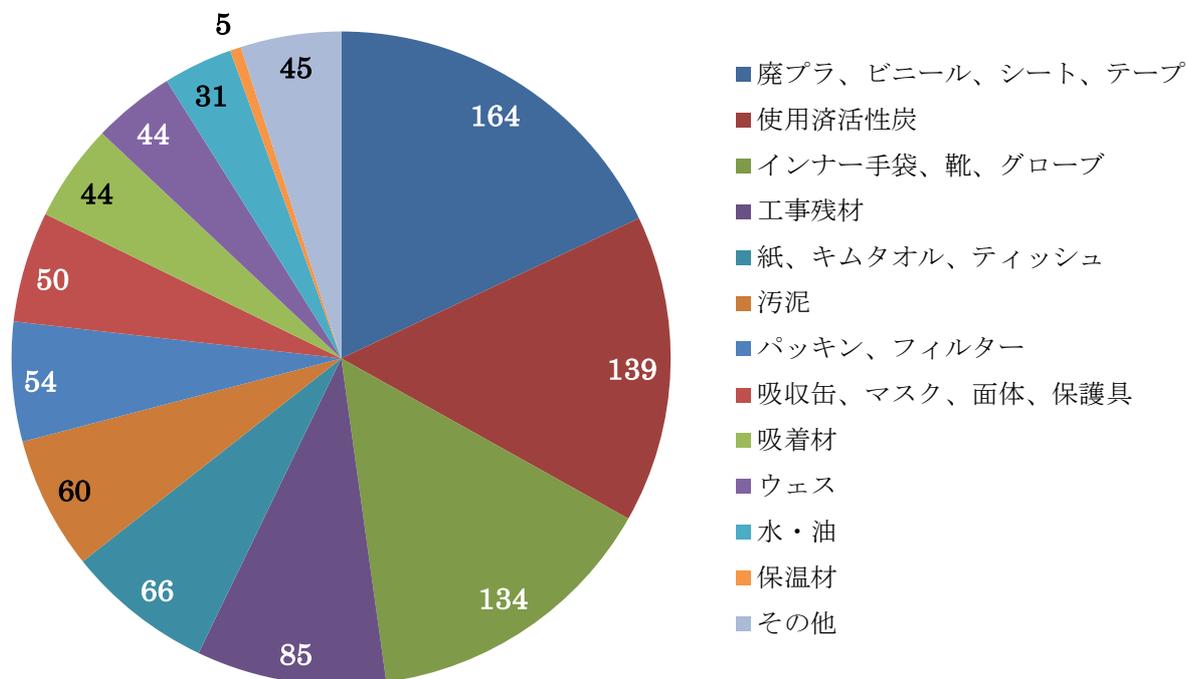
<参考> 周辺環境中のベンゼン濃度の推移



### 3 運転廃棄物の保管及び処理の状況

① 運転廃棄物入りドラム缶の保管状況（令和2年12月現在）

合計 914本（内訳は下図の通り）



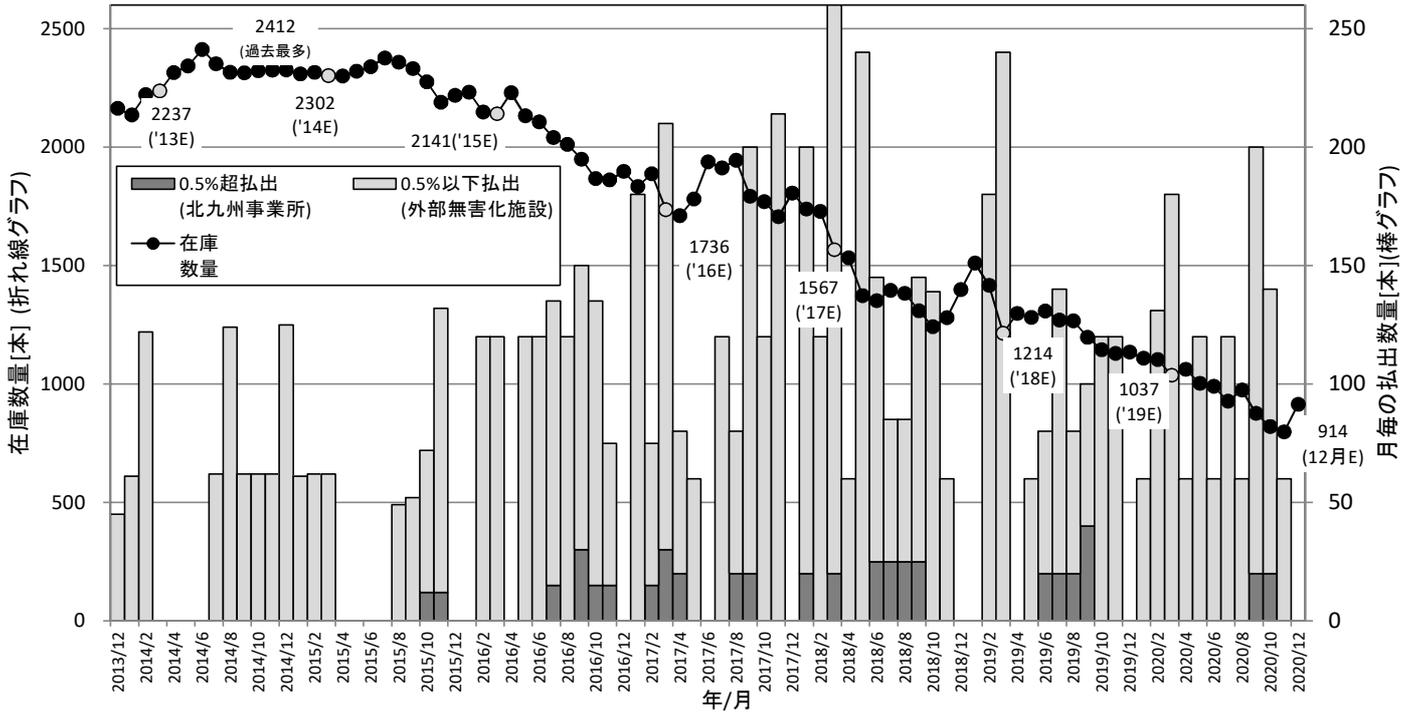
② 運転廃棄物の所内処理及び外部処理の実績

（令和2年12月現在）

年度	事業所内処理			北九州事業 所処理委託	外部処理（ドラム缶数）	
	防護服	ポリ袋	廃油		高濃度品 （注1）	実証試験
平成23年度	14,400着	640kg	2,643L	—	—	—
平成24年度	15,750着	700kg	1,743L	—	108本	—
平成25年度	18,000着	549kg	373L	—	74本+約 204本相当	306本+約62本相当
平成26年度	17,325着	666kg	526L	—	—	550本+約153本相当
平成27年度	18,000着	684kg	1,212L	24本	—	521本
平成28年度	15,000着	540kg	584L	120本	—	1,200本
平成29年度	19,250着	875kg	271L	100本	—	1,354本
平成30年度	12,850着	711kg	777L	100本	—	1,279本
令和元年度	13,775着	905kg	141L	100本	—	971本
令和2年度	5,300着	480kg	0L	40本	—	780本

（注1）高濃度品：PCB含有量 5,000mg/kg超、低濃度品：PCB含有量 5,000mg/kg以下

豊田事業所 運転廃棄物ドラム缶在庫数量の推移 (2013/12~2020/12)



## 4 収集運搬について

前回の安全監視委員会以降、令和2年度2月末までに発生した収集運搬及び保管時に伴うトラブル事例は以下の通りです。

### 1. 収集運搬機器からの漏洩について

豊田PCB処理事業所に受け入れを行なった際に確認された漏洩事例は3件ありました。

令和3年2月17日（水）に搬入された小型変圧器（1台、幅65cm、奥行50cm、高さ50cm）と2月24日（水）に搬入された大型変圧器（1台、幅170cm、奥行160cm、高さ80cm）とコンデンサー（1台、幅51cm、奥行12cm、高さ30cm）の上方に滲みが確認されたので、解体ラインに優先投入し処理しました。

いずれも固縛方法は適切であり、破損やへこみ等の異常はなかったことから、運搬中の振動などにより滲んだものと推定しました。

当該の保管事業者様及び収集運搬事業者様には、搬出の際の破損、滲みがないことの確認を今後とも徹底するよう指示しております。

### 2. 保管中機器からの漏洩について

豊田PCB処理事業所で搬入後、保管中に保管庫内にて漏洩が確認された事例は発生しておりません。

以上

## 5 地域とのコミュニケーションについて

地域の皆様へは、JESCOホームページを始め、事業だよりや施設見学等を通じて、積極的な情報公開に努めており、その実績は以下のとおりです。

### (1) 施設見学について

#### ①見学の実績

※令和2年度は、12月31日現在

	市民関係		行政関係		企業関係		合計	
	件数	人数	件数	人数	件数	人数	件数	人数
平成29年度	4	54	7	43	25	104	36	201
平成30年度	4	38	13	100	10	31	27	169
令和元年度	0	0	7	111	12	28	19	139
令和2年度	0	0	4	53	3	4	7	57

\*新型コロナウイルス感染防止のため、令和2年3月3日～7月12日まで見学者の受入れを中止。

#### ②見学に関するアンケートの集計結果(平成29年4月～令和2年12月まで、見学者566名)

質問1 説明は、わかりやすかったですか? (回答484人)			
	①わかりやすかった	②普通	③わかりにくかった
	92% (444人)	8% (39人)	0% (1人)
質問2 説明者の対応はいかがでしたか? (回答484人)			
	①良い	②普通	③良くない
	93% (450人)	6% (31人)	1% (3人)
質問3 本日の見学会は、参考になる内容でしたか? (回答484人)			
	①参考になる	②わからない	③参考にならない
	97% (471人)	2% (12人)	0% (1人)

### (2) 関係自治区への情報提供

#### ①年末年始の挨拶

施設周辺及び逢妻男川流域の19自治区を訪問し、年末年始の挨拶と事業の進捗状況等を説明しました。

- ・令和元年度 1月に19自治区を訪問しました。
- ・令和2年度 新型コロナウイルス感染防止のため訪問を自粛し、1月6日～8日、12日に電話で19自治区に挨拶しました。

#### ②新任自治区長への挨拶

新たに区長に就任された自治区を訪問し、年度始めの挨拶と事業概要等を説明しました。

- ・令和元年度 新所長の着任により、5月に19自治区を訪問しました。
- ・令和2年度 5月29日、6月10日～15日に14自治区を訪問しました。

### (3) JESCO地域協議会(平成25年度設置)

- ・目的：施設周辺自治区への情報発信と意見交換を行い、リスクコミュニケーションの推進を図ります。
- ・構成：事業所立地及び近隣の7自治区  
(樹木、三軒屋、広久手町、広久手、本地新田、深田山、土橋の各自治区)
- ・令和元年度 9月10日に開催しました。
- ・令和2年度 9月25日に開催しました。

### (4) 豊田PCB廃棄物処理事業だよりの発行(毎月1回)

- ・令和元年度 4月の180号～3月の191号まで、1年間に12回発行しました。
- ・令和2年度 4月の192号～12月の200号まで、毎月1回発行しています。

## 6 トラブルの報告

### (1) エレベーター機械室より出火

#### <概要>

令和2年10月5日10時9分に処理棟の屋上階にあるNo.4エレベーター機械室内の煙感知器が煙を検知し火災報知機が発報しました。

運転会社の社員が直ちに現地に急行し火炎を確認し、消火器2本を用いて消火活動を行い、消火に成功しました。

119番通報するとともに豊田市廃棄物対策課に火災発生を通報しました。

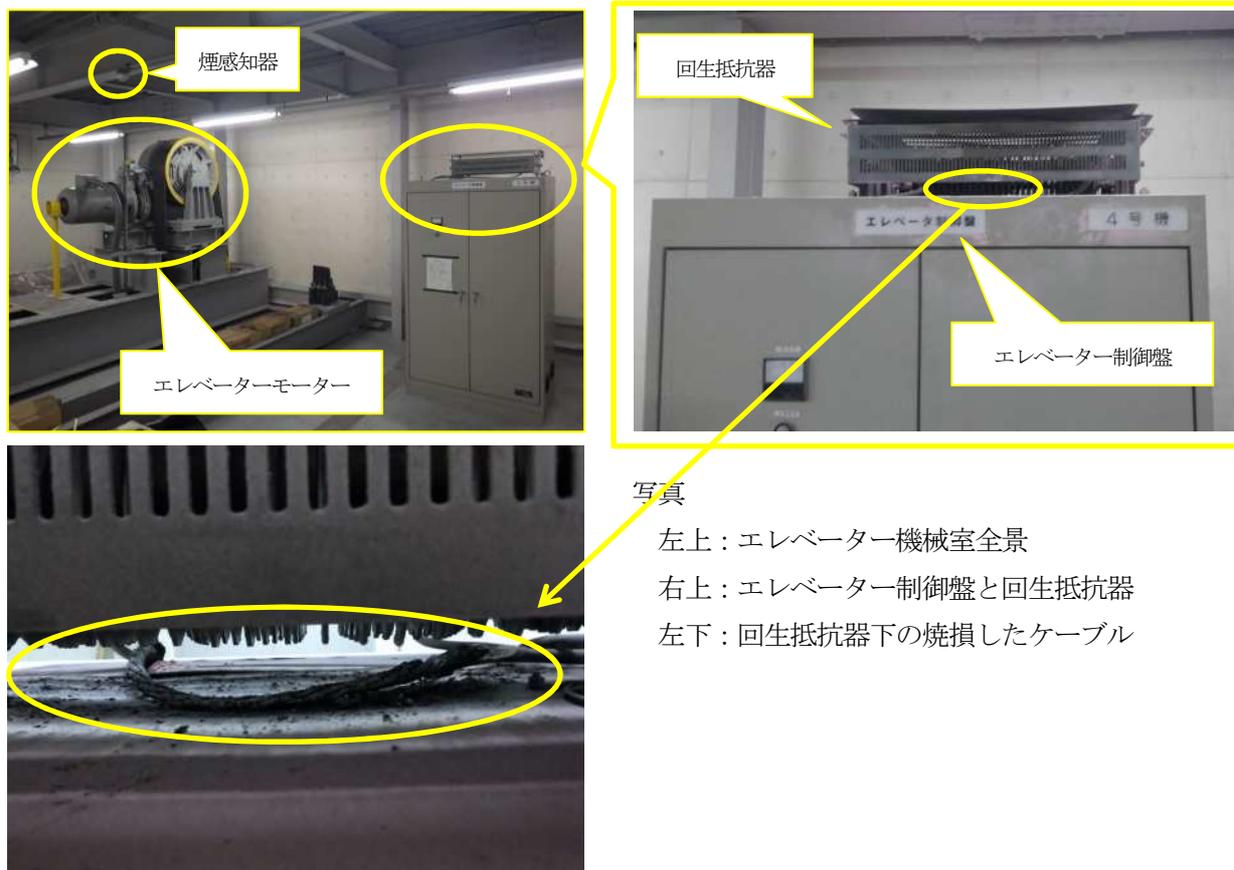
10時26分に公設消防隊が到着し現地を確認して、11時14分に鎮火の確認が行われました。

鎮火確認後、エレベーター機械室内のエレベーター制御盤上に置かれている回生抵抗器の下にあるケーブルが焼損していることを確認しました。

なお、この火災による建物外部へのPCBの漏洩はありません。

6日に焼損したケーブルはじめ制御盤内の部品を交換し、7日、8日にメーカーによる試運転を行い異常の無いことを確認しました。

このエレベーターは荷物用の大型エレベーターで最大積載量が10トンあります。



#### 写真

左上：エレベーター機械室全景

右上：エレベーター制御盤と回生抵抗器

左下：回生抵抗器下の焼損したケーブル

#### <原因>

メーカーの調査によると、今回の火災の原因は、回生抵抗器と制御盤の天板の間を通してあったケーブルが、長年にわたり回生抵抗器の熱を受け続けたことでケーブルの被覆が劣化し、エレベーター制御盤の天板と地絡したことで発火に至ったというものでした。

#### <対策>

回生抵抗器の真下に配線されていたケーブルを、熱の影響を受けないように、回生抵抗器の周り

に迂回させて配線しました。

また、漏電ブレーカーをエレベーターの電気系統に設置し、この系統に漏電が生じた場合にはすぐに電源を遮断するように改造しました。

さらに、回生抵抗器に電気を送る回生制動ユニットが仮に故障して、大きな電流が回生抵抗器に流れた場合には、電流を遮断することができるサーマルリレーも設置しました。

### <水平展開>

事業所内にはその他に 3 基のエレベーター（乗用）がありますが、こちらは遠方監視システムで 24 時間監視されており、異常が監視された場合にはすぐに対応できるようになっています。

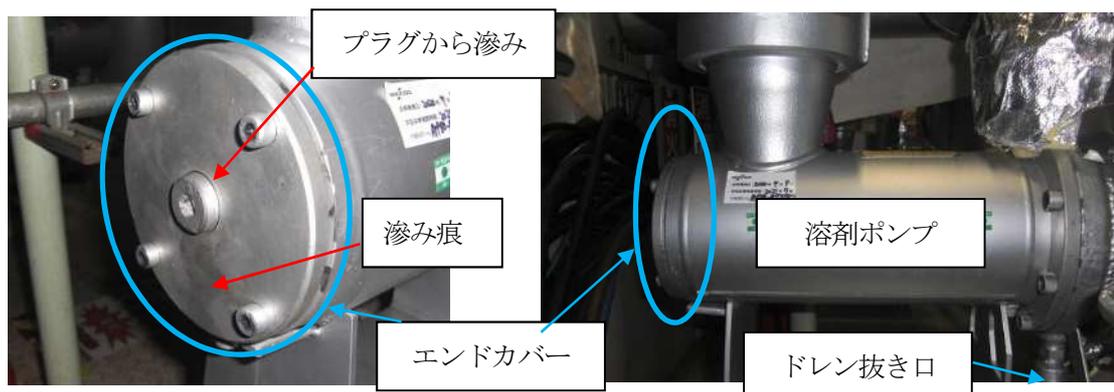
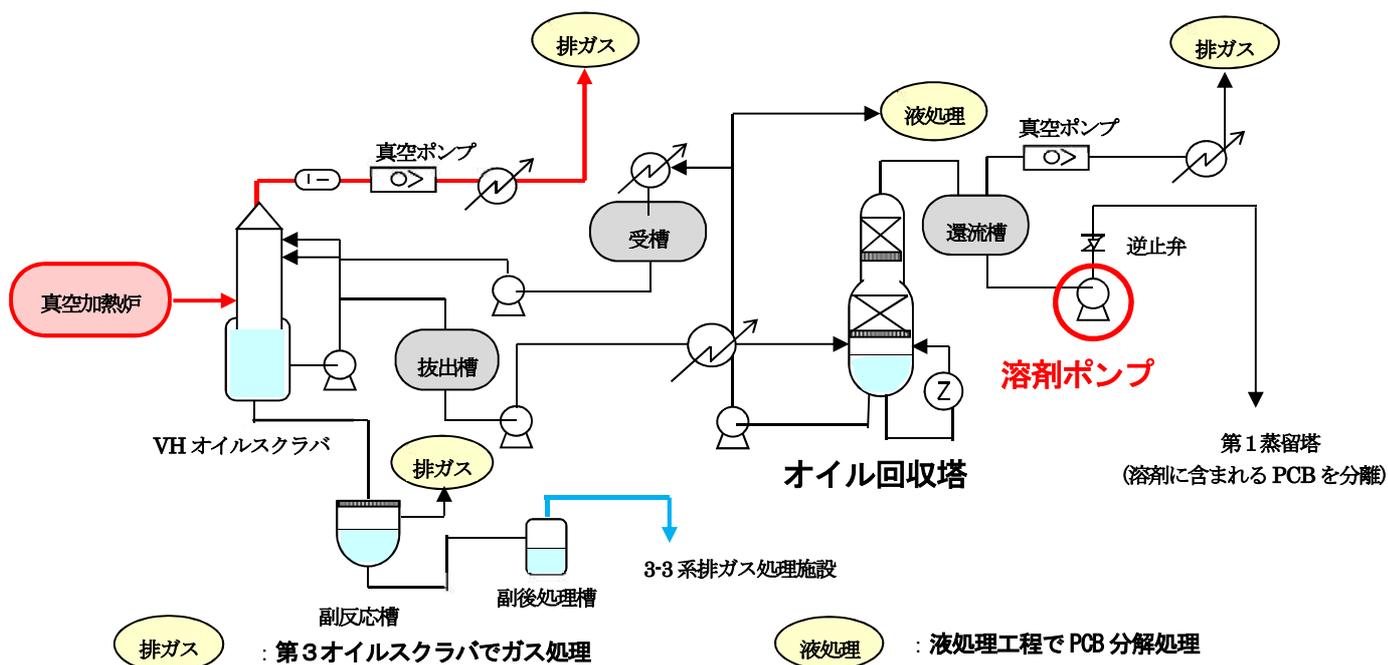
また、回生抵抗器へのケーブルも熱を受けるような位置に配線されていないことを確認しました。

## (2) オイル回収塔溶剤ポンプからの漏洩

### <概要>

令和 2 年 11 月 18 日 11 時 25 分頃、工事業者が蒸留エリア床に油だまりを発見しました。4 階に設置しているオイル回収塔の溶剤ポンプから溶剤が滲み、吹き抜け下の 2 階の床面に滴下したもので、量は約 10ml、PCB 濃度は 3.9 mg/kg でした。また、室内作業環境濃度が  $0.8 \mu\text{g}/\text{m}^3$  未満、排気出口濃度が  $0.4 \mu\text{g}/\text{m}^3$  未満でした。

オイル回収塔はスクラバオイルに含まれる低沸点の溶剤を分離する設備で、今回漏洩した溶剤ポンプ（キャンドポンプ）により分離した溶剤を第 1 蒸留塔に送液しています。



当該ポンプは今回の定期点検期間中に更新予定であったため、11月11日にオイル回収塔を停止しポンプ内の溶剤は全量抜き取りを行っていました。

しかし、当該ポンプの吐出側の配管に設置されている逆止弁が内漏れしていたため、上部の配管より溶剤が少しずつ当該ポンプ内に流入し、当該ポンプ内が溶剤で満たされていたことが後日の調査で確認されました。

これにより、エンドカバーの中央部分にあるプラグから11月18日に溶剤が漏れました。

#### <原因>

メーカーの調査結果によると、6月の整備の際にプラグ部分の締め付けが不十分であったと考えられ、このことがプラグから漏れた主要原因で、約5ヶ月間の運転の間にガスケットの反発力低下またはポンプの運転振動によりプラグの緩みが進んだ可能性も考えられるというものでした。

なお、運転中はオイル回収塔系統内を真空引きした状態であるため、プラグ部分に液滲みするだけの圧力がかかっていなかったと推定されます。

#### <対策>

今後、同様の不十分な締め付けによるプラグ部分からの漏洩を発生させないため、ポンプメーカーの組み立て時のチェックシート内に「ガスケット交換した箇所の締め付けは良いか」というチェック項目を追加することとしました。これにより、今回のようにプラグ部分のガスケットを交換した場合に、プラグの締め付け不足を防止します。

#### <水平展開>

他の同様のポンプへの水平展開を以下のとおり実施しました。

##### ○ 他のポンプのプラグの緩みの確認

所内で使用しているキャンドポンプで、エンドプレートにプラグが取り付けられているポンプは今回漏洩したポンプを含め35台あり、ポンプメーカー作業員がエンドプレートのプラグを確認したところプラグに緩みが確認されたものはありませんでした。

また、今回漏洩したポンプについては、更新後のポンプについてプラグの緩みがないことを確認しました。

##### ○ マーキング

緩みがないことを確認後に、プラグとエンドプレートにマーキングの線（アイマーク）を入れて、緩みが発生した場合に目視で確認できるようにしました。

##### ○ マーキングのチェック

今後、定期点検時等にマーキングのチェックを行い、プラグに緩みが発生していないことを確認します。